

中斎塾 北関東フォーラム 第8回講話

令和7年9月20日

おはようございます。田島幹事のお話にありました「学ぶ」が大変心に残りました。「学ぶ」という言葉は、ご存知の通り、「学びて思わざればすなわち罔く、思いて学ばざればすなわち殆し」という言葉が論語の中にございます。

「学びて思わざれば、すなわち罔く」は、学んだ時に自分自身で何かを感じ、何かを思わないと役に立ちません。学ぶと言っても聞くだけ聞いて、それがすぐ抜けてしまうでは話になりません。

皆さんにお聞きします。母親や奥さん、ご主人、あるいは他の誰かが作ってくれた料理を食べる時、「美味しいな」と素直に思って食べるタイプですか？それとも、「正直あまり美味しくはないけれど、せっかく作ってくれたんだから、我慢して食べなきゃ」と思いながら食べるタイプでしょうか？

中斎塾フォーラムに来ておられた須藤さんという女性がいます。その方は、自分で教室を持って論語を中心とした学びを教えています。以前もお話しましたが、須藤さんに頼まれて行ってみたら、聞く方は全員女性でかなり年配の方もおられました。

その時のテーマは、「学びて思わざればすなわち罔く、思いて学ばざればすなわち殆し」でした。話を聞いておられる女性の方々に、ご主人は、あなたの作った食事を美味しいと言って食べますか、それとも、何も言わずに黙々と食べていますかとお聞きしました。

すると大体美味しいと言う方が多数でした。ご主人にはなるべく長生きしてもらい、お給料をずっと運んできてもらうのがいいと思われる方、手を挙げてくださいと言ったら、全員が手を挙げました。やはり稼いでくれる方がいいですね。

「学びて思う」とは、ご主人が「一生懸命稼いでくれるには私がどうしたら良いかを学び、自分の工夫を加えてご主人をひたすら思う事だと理解してください。「亭主、もっと働け」「たくさん稼いでこい」と強く言うより、「美味しいものを沢山食べて長生きしてね、一生懸命働いて下さいね」と言った方が、関係がスムーズにいきますね。

そのようにうまく物事を進める為には学ぶことが必要です。栄養学を学び、美味しく健康に良い食事をとって貰う事は、自分の知恵だけでは難しいものです。栄養学や料理教室等、専門家のところへ学びに行く事は大変ですが、多少の資本や時間を投じて努力すれば、ご主人も喜び、さらに働いてくれるかもしれない。ご自分、ご主人どちらの為かは別として、結果的に良い方向へ進めば良いですねと話をしたら、皆さん賛同してくれました。

たとえ夫に不満があっても、仲良くする。頑張って働いてもらえるようにする。論語ではそう教えています。

「学ばざれば罔く、思いて学ばざれば殆し」とあるように、料理を専門家から学ぶだけでなく、ご主人のために美味しいものを作りたいという思いも大切です。その思いがあつてこそ、料理は心がこもったものになります。ただの学びだけでは、相手に伝わらないこともあります。

「思いて学ばざれば危うし」とは、相手の為になにかをしようという気持ちがあつても、正しく学んでいなければうまくいかない、という意味です。例えば、夫の為に料理を作っても、作り方をきちんと学んでいなければ、味付けを間違えて「美味しくないと」言われ、気まずくなることもあります。そうすると、「せっかく作ったのに」と心がすれ違い、夫婦関係に影響が出てしまうかもしれません。

一方で、専門家から学んで正しい知識を身に付け、「あなたの為に作ります」と思いを込めて料理すれば、たとえ少し不満があつても夫は喜んでくれるでしょう。つまり、思いと学びの両方があつてこそ、日常もうまくいくのです。

学問とは、日常生活に役立つからこそ「学問」と呼ばれ、長い時間をかけて歴史的な試練を乗り越えながら、人々の間で「常識」として定着し、それが体系化されたものです。お互い認め合いながら積み重ねられてきた知恵が、やがて学問になるのです。ですから、その学問を我がものにする事は、大変良い事です。

## シムックス 50 周年記念式典お礼

おかげさまで、シムックスの 50 周年記念式典も無事終了しました。有難う御座いました。中斎塾フォーラムからも大勢の方にご出席戴きたいと思ったのですが、人数の関係で、理事長・副理事長・評議員会議長にご出席戴きました。重ねてお礼申し上げます。お花も理事長と副理事長のお心遣いでご用意戴き、感謝申し上げます。

## 論語の解説

では、論語の素読に参ります。皆さん後に続いて一緒に素読致しましょう。

- ① ていこう と いちげん もつ くに おこ こ あ こうし こた  
定公 問う、一言にして以て邦を興すべきもの諸れ有りやと。孔子 対え  
いわ げん もつ かく ごと そ き ひと げん いわ きみ こと  
て曰く、言は以て是の若く其れ幾すべからず。人の言に曰く、君為ること  
かた しん こと やす も きみ た かた し いちげん  
と難く、臣為ること易からずと。如し君為ることの難きを知らば、一言  
くに おこ き いわ いちげん くに ほろぼ  
にして邦を興すことを幾せざらんやと。曰く、一言にして邦を喪すも  
こ あ こうし こた いわ げん もつ かく ごと そ き  
の諸れ有りやと。孔子 対えて曰く、言は以て是の若く其れ幾すべから  
ず。ひと げん いわ われ きみ た たの な ただ そ い われ たが  
人の言に曰く、予 君為ることを楽しむ無し。唯 其の言いて予に違

うこと莫<sup>な</sup>きなりと。如<sup>も</sup>し其<sup>そ</sup>れ善<sup>ぜん</sup>にして之<sup>これ</sup>に違<sup>たが</sup>うこと莫<sup>な</sup>くんば、亦<sup>また</sup>善<sup>よ</sup>か  
らずや。如<sup>も</sup>し不<sup>ふ</sup>善<sup>ぜん</sup>にして之<sup>これ</sup>に違<sup>たが</sup>うこと莫<sup>な</sup>くんば、一言<sup>いちげん</sup>にして邦<sup>くに</sup>を喪<sup>ほろぼ</sup>す  
ことを幾<sup>き</sup>せざらんやと。

(子路第十三・15)

定公という魯の国の君主についての話です。孔子はこの時、50代前半です。51歳から55歳までの間、定公に仕えていました。つまり、君主と家臣という関係でのやりとりです。

定公から見たら、大変な先生が正式に仕えてくれたので、素晴らしいことを教えてくれるだろうと期待して、たった一言で「国が栄え、発展するための魔法のような一言はないか」と尋ねたのです。孔子はそれに対して、「そんな簡単なことではありません」と答えました。

「言は以て是の若く其れ幾すべからず」

幾すとは何かを期待するという意味です。そんな簡単に実行できるような魔法の一言は存在しない、ということです。

理想的な君主になることも、理想的な家臣になることも簡単ではない、ということです。ただ、難しいけれども、

「如し君為ることの難きを知らば」

もし定公、つまり君主が国を治めることが本当に難しいと身体で理解し、心から実感していれば、

「一言にして邦を興すことを幾せざらんや」

たった一言が国を良くするヒントになることは期待できる、ということです。ここで大切なのは「知行合一」です。「知る」とは、実際に行動しない限り本当の知識にはなりません。知識として知っているだけではあまり役に立ちませんが、身体で覚え、身に染み込ませることで、それが本当の知識になるのです。そして、本当の知識が積み重なれば、知恵になります。

国を良くするための「一言」が心に深く染み込んでいるような君主であれば、十分に期待できるということを孔子は伝えたのです。

それに対して、定公が「たった一言で国を滅ぼすような言葉、つまり将来性が全くないことを示す一言はないか」と尋ねました。孔子は「そんなことは一言で言えるものではありません。『かくのごとくする、それ期すべからず』というように、一言で国が滅びることがわかるような魔法の言葉などありません。」

君主であることに楽しみなど全くない、ということです。君主が私的な楽しみを優先し、黒いものを見て『これは白だ』と言った時、家臣たちがこぞって媚びへつらい、『まさしくその通りでございます』と迎合する。表面だけ『仰せの通りです』と従う。君主がそのような空気を作ってしまった時、国は必ず滅びます。

ですから、会社の社長とは、非常に重要です。

「シムックスがあと 50 年で、売上 100 億円を 1,000 億円に伸ばしていこう」と目標を掲げることはできますが、実際にそこへ向かって歩む為には、その時々社長が「経営とはなんと難しいものか」と、血の滲むような努力をしながら挑まなければなりません。そうした苦勞が身に染みていれば、会社は成長し、発展していく筈です。

一方で、すぐに潰れてしまう会社は、社長が無責任なことを言い、それに対し誰一人として意見せず、ただ「おっしゃる通りです」と従ってしまうような体制にあります。「とにかく金をばらまけ」と社長が言い、それをそのまま実行してしまえば、会社はあっという間に立ち行かなくなります。

会社のトップに立つ方は、こうしたことをぜひ心に留めておいて戴きたいと思います。

「予に違ふこと莫きなり」は誰も自分に逆らわない。自分の言うことが全部通る、こんな楽しい事はないでしょう。

「如し其れ善にして之に違ふこと莫くんば、亦 善からずや。如し不善にして之に違ふこと莫くんば、一言にして邦を喪すことを幾せざらんや」

良いことをしていて、誰もそれに反対しないならそれは良い。しかし、もし君主が悪いことを良いと言い、それに誰も逆らわなければ、たった一言で国を滅ぼしてしまうことにもなる、という意味です。

つまり、君主の判断が正しい時従うのは良いが、君主が誤っている時誰も意見できない状況は非常に危険だ、という警告です。

②子貢 <sup>しこう いわ</sup> 曰く、君子は一言以て知と為し、一言以て不知と為す。

(子帳第十九・25)

子貢が孔子について話している場面です。子貢は目から鼻に抜けるような才子でした。人々の間では、孔先生より子貢先生の方が遥かに知者ではないか。子貢に比べて、孔子は知恵があまりないのではないか、等と言われており、そのような会話を頭に思い浮かべて戴くと分かりやすいでしょう。

「君子は一言以て知と為し」

立派な人物とは、たった一言聞いただけでも「なるほど、素晴らしい考え方だ」と思うものです。孔子が何かひとこと言うだけで、素晴らしい先生だと感じさせられます。

ですから、私達も自分が話す言葉には十分に気をつけなければなりません。特に人前で話す立場の人は、聞いている人ががっかりするようなことを言うてしまうと、それだけで「この人は見掛け倒しだ」と思われてしまいます。

孔子は一言ひとことに細かく気を配っているのですが、それを見せません。そして実際に発する言葉がどれも本当に素晴らしいのです。

一方、子貢は、「私はとてもそこまで至りません。ただ、色々話している中に、良い言葉が混ざっている程度です」と言っています。つまり、孔子はすべての言葉が優れているのだと、そう理解して戴きたいのです。

「一言以て不知と為す」

孔子の場合、一言で素晴らしいと思われることもあれば、たった一言で愚かだと見なされることもあり、評価の落差が非常に大きいです。人前で話す時は本当に注意が必要です。

これは私自身への戒めでもありますし、皆様にもぜひご自身に置き換えて考えて戴きたいのです。自分の言葉が、一言で評価されたり、時には見下されたりすることもあるのですから、発言には慎重になった方がよいでしょう。

明德出版の社長と話をしたときには書いた文章を5回見直した上で見せています。同じ文章を何度も書き直す時のポイントは、読みやすい文章にする為に、何度も何度も見直して校正することです。

## 恒例の質問

恒例の質問をさせて下さい。

- 良い日がずっと続いている方
- 嘘はつかなかったし、嘘をつかれなかった方
- 有難うと言いつけているし、有難うと言われ続けている方
- 体の手入れをよくやっていると思う方
- 自分磨きもよくやっていると思う方
- 昨晚眠る時に満足感があった方

## 令和七年を考える

今回は自民党総裁選挙について触れながら、話をしたいと思います。  
自民党内の争いが、そのまま日本に対して大きな影響を与えるので、まともな政治家が出てきて欲しいと思います。今回若手2人、ベテラン3人が出馬しています。応援する議員の方々は、自分達の意志で決めればいいのかと思います。

政治家が良くないので日本は坂道を転げ落ちている状況です。コロナ禍で速報が出たように、今月の餓死者は何名、餓死の恐れがあり救急車で運ばれた人が何名、そのような速報が当たり前のよう報道されるようになったら、日本はどん底の底に着いたということです。

ガザ地区では飢え死にが多いようです。日本で戦時中に大本営発表がありましたが、日本兵は弾に当たって亡くなるより、餓死者の方が非常に多かったようです。

お米で常識が変わってきたと思います。以前は10 kgカウントされるのが当たり前でしたが、今は5 kgになっています。おかしいですね、錯覚させているのでしょう。

新米が高値をつけ、3 カ月ぶり 5kg4000 円台と新聞の見出しにありました。数日前にお米を取り扱っている方とお話ししましたが、その人は10 kg単位でお話しされます。メディアの報道により一般的に「5 kgあたり 4,000 円」の感覚で話を聞いていたので、10 kgあたり 8,000 円と聞いて少し混乱しました。お米の値段が上がった事を実感させない為でしょうが、いつのまにか常識がすり替えられている事が気になりました。

金利について、日銀は金利据え置きを発表しました。アメリカも金利を下げました。日本は金利を上げると言いながら、実際に上げると自分の首を絞めることになるので、上げるというポーズだけ取り続けるでしょう。

最後締め括りになりますが、自分の常識だと思っていることが、知らぬ間に変わっている事にどこかで気付き、何かおかしいという気持ちが湧いてくる。おかしいと思ったら調べましょう。自分の常識がいつの間にかすり替えられている所に焦点を絞り、世の中を閲覧戴きたいと思います。有難う御座居ました。